



函館(白尻)地域マリンビジョン策定(推進地域)

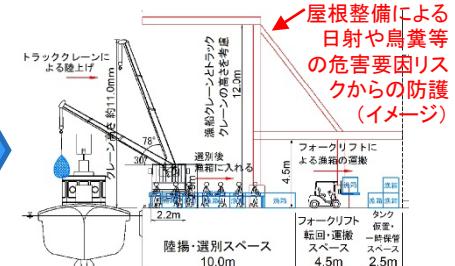
## 現状と課題

- ・漁獲が増加する暖海性魚類は、長時間の野天での陸揚げ・荷さばき作業、一時保管を余儀なくされており、鮮度低下や異物混入が課題である。
- ・地震・津波発生における陸揚げ機能の確保、避難路の確保が課題である。
- ・コンブ漁業において係留施設の不足による前浜利用、船揚場での船揚げ待ちなど、非効率な作業状況にある。

## 港勢 (H30港勢調査)

登録漁船: 195隻  
利用漁船: 220隻  
(内、外来漁船: 31隻)  
属地陸揚量: 5, 594トン  
属地陸揚金額: 13. 3億円  
主な魚種: コンブ類、マイワシ  
組合員数: 142人

## 主要な対策①：衛生管理対策



## 主要な対策②：防災対策



## 主な整備方針

- ・陸揚げ後の温度上昇や異物混入による水産物の品質低下を防ぎ、地域の作業形態と連携した衛生管理に対応するため、陸揚岸壁を屋根付き岸壁として整備する。
- ・発災後における水産業の早期再開を可能とする体制を確保するため、主要な陸揚岸壁及び防波堤の耐震・耐津波性能の強化を図るとともに、津波に対する背後地域の防災対策強化のため、避難階段等を付加した臨港道路を整備する。
- ・コンブ漁業の作業効率化を図るため、コンブ漁船が利用する岸壁や船揚場等の整備を行う。

## 基本事項

全体事業費: 57. 9億円  
事業期間: R3～R12